

# 南あわじ市再生可能エネルギー活用推進に関する市民懇談会 議事要旨

- ◆日時 令和2年2月5日（水）午前10時00分～11時50分
- ◆会場 南あわじ市役所第2別館2階 第5会議室
- ◆出席者 産官学金等各種団体：15名  
市長、副市長、部長、副部長及び課長（9名）  
事務局：総務企画部ふるさと創生課長及び担当（2名）

## ◆懇談会の概要

1. 開 会 事務局から開会の言葉
2. あいさつ 南あわじ市長よりあいさつ
  - 趣旨と検討経緯を説明
3. 内容
  - 1) 再生可能エネルギーの活用推進について（資料1, 1-1）
  - 2) 地域新電力事業の実現可能性について（資料2, 3）
  - 事務局担当より、資料の説明を行った。
4. 意見等発言要旨

### 【参加者からの主な意見】

（条例化）

- ・ **連合自治会**：人口減少で自治体の財政難は加速する。持続可能な社会を維持するには、市も財源の確保に努めなければならない。市民アンケートでもあったとおり、「地域新電力」について内容がわからない方も多く、周知が必要である。新たな発電施設の整備については、近隣住民との合意形成が必要である。  
⇒市：ご指摘のとおり、市民への周知徹底、地元住民の合意形成、法律遵守の徹底が必要である。
- ・ **県民局**：淡路島では、県民局と淡路3市が中心となって、「あわじ環境未来島構想」の推進をしている。特に、今年の秋には花みどりフェアが開催され、エネルギーに関するシンポジウムも検討しており、住民向けの周知方法の一つとなる。
- ・ **事業者**：再エネの推進には、地域に合った条例づくりが必要である。
- ・ **安全協力会**：市が制定を進めている条例の内容を確認したが、今後推進するにあたり、内容が明確で良い。
- ・ **商工会**：再エネを上手く活用していくには、アクセルとブレーキ（推進と抑制）が必要である。  
⇒市：ご指摘のとおり、事業者が法令を遵守して事業を進めれば、それを止めさせるのは困難である。ただし、条例化により市内動向の把握や監視を進める一歩となる。  
ここ3年間で太陽光発電施設の整備で問題となった事案が3か所あった。住民だ

けだと事業者に強引に押し切られる可能性があり、行政が間に入ることにより多少の抑止力につながる。

- ・ **大学**：南あわじ市の豊かな自然環境・景観を維持してほしい。なお、バイオマス発電については、廃棄物が原料となるため設置には住民理解も必要ではないか。

(地域新電力事業)

- ・ **信用金庫**：地域新電力の事業性を判断するうえでは、損益分岐点の判断、出資責任、販売先、卒FITを始めとした再エネ供給電源の確保など経営に関する課題も多い。緻密な事業計画が必要である。

⇒市：地域新電力事業を行ううえでの詳細な収支計画については、今後募集する地域新電力事業パートナーとの協議が必要である。

- ・ **事業者**：自治体出資の地域新電力会社の営業収益状況はどのようなものか。

⇒市：大まかに言うと、地域新電力会社の6から7割は赤字である。ただし、その傾向は、平成24から25年頃に設立された初期の地域新電力会社については、事業計画も甘く赤字となっている。

- ・ **事業者**：島内にはLPガス会社が42社あり、そのうち21社が南あわじ市内にある。各顧客には、1か月に1回訪問する状況である。

- ・ **農協**：病害虫が秋から増加するため、光を使用した防除を推進しているが、近年は、省エネ性能が高いLEDを推奨している。本地域は農業の一大生産地であり、野菜残さの資源循環化を目指した処理に協力したい。

⇒市：野菜残さや下水汚泥の資源化、例えば堆肥化やメタン発酵など地域資源化を検討しており、協力をお願いしたい。

- ・ **安全協力会**：神戸市は下水汚泥の焼却灰を利用したアスファルトの製造を行っている。島内には、アスファルトプラントが2基あるが、どちらも淡路市内にある。

⇒市：本市では5,000万円かけて下水汚泥を岡山で処理している。資材にするか、堆肥化するか再利用が必要な分野である。

- ・ **商工会**：玉ねぎ残さの処理施設が5年後目途にできるのが希望である。産地を守るためには必要な施設である。

- ・ **安全協力会**：洲本市では風致地区を設けており、植樹や景観等必要に応じて条件を付して開発行為を許可している。

- ・ **安全協力会**：地域新電力事業の是非については、迷っている方が多いと思う。五色で発電事業をしているが、電力の半分を新電力に販売している。2020年には発送電分離を迎える。地域新電力事業の実施には、メリットとデメリットの周知が必要である。

⇒市：送配電部門の中立性が確保されるよう、関電には一定の制限がかかる見込み。

- ・ **農協**：農協には本所、支所、各種センターあわせて高低圧16施設と高圧の選果場が4施設ある。今後、組織の再編が進んでいく。エネルギーの地産地消は大きな課題であり、野菜残さ処理も含めて協力する意向はある。

#### 4. その他

- 事務局より、次回市民懇談会を必要に応じて開催する旨告知。

#### 5. 閉 会 南あわじ市副市長よりあいさつ